

リドヴィッジ・エデルコート氏からのメッセージ
「バルビゾンへの回帰」

「彼は都市があまりにも汚染され、生活が忙しすぎることに気がつき、恐ろしいパンデミックと政治的混乱ののち、妻と子供を連れて田舎へと移り住んだ。清らかな空気や美しい風景を求めて。そして、森を愛し、素朴なライフスタイルを愛する心をもって。」

この文章は、2022年9月に書かれたものです、とお伝えしても違和感がないのではないのでしょうか。なぜなら、この文章には、私たちの世界の状況、すなわち、多くの人々がパンデミックやロックダウンから学び、都市を離れて田舎に住環境を求め、暮らしの場である家の中で仕事をする、今日の様子を物語っているのですから。

しかしこの文章は、19世紀の画家で、農家に生まれた、ジャン＝フランソワ・ミレーについて書かれたものです。彼は、パリの表層的な美術業界から逃れ、仲間のアーティストたちと共に、自然の中で直接的なインスピレーションを得て、農夫たちや動物、納屋や木々を描きました。

このことは、アートの世界に起きた一つの革命でした。労働、手仕事、質素な美しさが重要なものとして、人々に語られるようになったためです。ここから、バルビゾン派、として知られる動向が形作られたのです。

歴史上、最も有名な絵画の一つが、山梨県の県庁所在地に所蔵されています。それは“種をまく人”です。ミレーによって描かれたこの絵画は、世界中に知られるのみならず、他のアーティストたちへ、インスピレーションを与え続けてきました。一例としては、このダイナミックな作品に倣い、色彩豊かな作品を描いたフィンセント・ファン・ゴッホが挙げられます。このほか、山梨県立美術館には、数多くのミレー作品、そして、バルビゾン派をはじめとする同時代の画家の作品が所蔵されており、重要なコレクションを形成しています。

自然、そして自然の中で生きる人々を重要なモチーフとするこれらの作品群は、パンデミックを経験する、昨今の私たちの状況と重なり合うものであることから、社会、そして創造性への関与という点で、大きな役割を担うものとして、再び、その存在感を増しています。極めてエキサイティングな事象ではないでしょうか。

今、山梨県と山梨県立美術館は、ミレーやバルビゾン派の画家たちを見つめ直し、彼らの経験をアップデートする必要があります。

その方法としては、美術館や地域への訪問を、現代的で、創造力をかきたてるものとして提供すること、作品を革新的な方法で展示すること、ミレーや、同時代の画家たちの作品を、異なるアーティストの作品と掛け合わせて展示すること、美術館の中だけではなく、周辺スペースにおいて展示することなどが考えられるでしょう。

ミレーの精神は、さまざまな、複数の焦点へと私たちを導いていくでしょう。その範囲は穀物の保存法、木々の観察、テキスタイルのための繊維を育て産地へと提供すること、農業用ロボットの実証事業も、自然染めのワークショップも、農業にアイデアを得たオブジェ作りやバルビゾンのファッションコレクションまで多様であり、そのインスピレーションには限りがありません。

実証事業、ワークショップ、そして、アーティストインレジデンスは一般の人々が自然豊かな環境でゆったりとした贅沢な生活を満喫できるきっかけを作るでしょうし、コンテンポラリーアートやテキスタイル、デザイン、写真はその関連性を多くの人に納得させるものとなるでしょう。

ミュージアムは、ホスピタリティの意味において、その役割を再考し、自然豊かな地方文化において再設計をしていくことになるでしょう。バルビゾンの精神を象徴する“ゲストハウス”は、インスピレーションの源として見直されるでしょう。時代は私たちの味方です。なぜなら自然や地方のリバイバルがちょうど始まったばかりなのですから！

ミレーがバルビゾン村に移住し、種をまく人に着手した 1849 年から、私たちが生きる 2022 年までの間に生み出された情報の集合体こそが、山梨県立美術館のコレクションが再び注目を集め、現代的な状況に繋げることを実現するために、私たちが調査・探索していく資産なのです。

半世紀にわたる私の生涯の経験、さらにルーヴルランスやブラバント地方でなし得た任務の成功事例に裏打ちされて、私は過去から現在、さらには未来までつなぐビジョンを手仕事により形作り、作品を整理し、私たちの世界とメタバースの間にハイブリッド環境を作り出し、古代から不変の、芸術、手仕事、そして自然の関係性を尊重しながら、新しいテクノロジーをシームレスに探求していきます。

リドヴィッジ・エデルコート

2022 年 9 月



プロフィール

トレンド・ユニオン社代表。

パリ、ニューヨーク、東京にオフィスを持つクリエイティブなトレンド情報を予測・提供する。

ビジネス誌タイムにおいて、ファッションとビジネスにおける最も影響力のある人物の一人に選出され、その影響力の範囲は、デザイン、アートの分野にも及ぶ。

世界各国のミュージアムとも協業の実績を有しており、2010、2011年のフランス、ルーブル美術館ランス別館との協働事業では地域との連携に寄与。